

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	平成 29 年度
氏名	森 未織	指導教員 (主査)	杉本 希映

論文題目	いじめ被害経験が見捨てられスキーマと関係性攻撃に及ぼす影響
------	-------------------------------

本文概要

問題と目的 近年のいじめ認知件数の増加傾向に伴い、いじめ被害（仲間はずれ，無視，陰口）は，小・中学生では 10%以上が体験している。「仲間はずれ，無視，陰口」は，「関係性攻撃」という概念に属し，被害者と加害者が入れ替わりながら進行する（国立教育政策研究所，2015）。水野ら（2013）は，見捨てられスキーマ尺度の「しがみつき」因子が関係性攻撃の「関係操作」などの有意な予測因子となることを明らかにした。見捨てられスキーマは，主に幼少期の重要他者との不安定な愛着関係から形成され，子どもが成長するにつれて仲間や学校といった文化的環境などが次第に重要になり，スキーマの形成に寄与する（Young et al.,2003/2008）。幼少期の不安定な愛着関係が見捨てられスキーマの基礎を形成するが，いじめ問題が深刻な現状において，親以外の重要な他者とのいじめ被害経験を含んだ不安定な対人関係が，さらにこのスキーマを発展させ，関係性攻撃を及ぼすと考えられる。そこで本研究では，幼少期からの不安定な愛着関係によって形成された見捨てられスキーマが，小・中・高のいじめ被害体験によってさらに形成され，関係性攻撃に及ぼす影響を検討することを目的とする。

方法 大学生を対象に無記名式質問紙調査を実施した。有効回答数は 361 名（男子 104 名，女子 257 名）。使用した尺度は①親への愛着尺度（佐藤，1993）で幼少期の体験を回想法で回答を求めた。②いじめ被害の経験尺度（水谷・雨宮，2015）で小・中・高校時それぞれに回答を求めた。③見捨てられスキーマ尺度（以下：ASQ）（井合・根建，2010）。④攻撃性尺度の関係性攻撃因子（磯部・菱沼，2007）。

結果と考察 幼少期の親との愛着関係・いじめ被害経験と見捨てられスキーマとの関連を検討したところ，男性の「いじめ被害経験」においては「ASQ 合計点」，「見捨てられ」，「諦め」に中程度の相関が認められた。一方，女性は「いじめ被害経験」において ASQ3 因子に弱い～中程度の相関が認められた。さらに，幼少期の愛着関係がいじめ被害経験を通して，見捨てられスキーマの形成に寄与するかを検討するため，階層的重回帰分析を行った。その結果，幼少期の愛着関係がいじめ被害経験後，ASQ 3 因子にそれぞれ影響を及ぼすが，男性の「しがみつき」のみ，「いじめ被害経験」は影響していなかった。いじめ被害を受けた男性は，同じ被害を受けないために他者と距離をとるようなかわりをすると考えられるため，他者との関係に固執する「しがみつき」において性差が示されたと考える。最後に「いじめ被害経験」と ASQ3 因子が「関係性攻撃」に影響するというモデルを作成し，幼少期の愛着 3 類型で多母集団同時分析のパス解析を行った。その結果，回避型とアンビバレント型はいじめ被害経験から ASQ3 因子から「関係性攻撃」へのすべての標準化係数が有意であった。安定型はいじめ被害経験から「見捨てられ」，「諦め」のみの標準化係数が有意であった。回避型とアンビバレント型は安定型と比較すると，ネガティブな感情に焦点を当てやすい傾向があるため（金政・大坊，2013），いじめ被害経験がネガティブな体験として記憶され，ASQ 3 因子の形成につながったと考えられる。ASQ3 因子の「しがみつき」は，他者を信頼していない「見捨てられ」，他者との関係を諦める「諦め」とは，他者とのつながりを求める点で差異がある。関係性攻撃は，攻撃が目的ではなくではなく，他者とのつながりを維持するために用いられている側面がある（田坂，2012）。よって，ASQ の「しがみつき」のみが関係性攻撃に影響を及ぼしたと考えられる。本研究から，いじめ問題の予防と対応において，幼少期の親子関係が重要であることを確認できたといえる。また，幼少期の親との愛着関係が不安定である場合でも，いじめ被害経験後に見捨てられスキーマに介入することがいじめ予防につながる可能性が示唆された。